

大学

企画課管理用 研 一 B 一 1

推進主体	学長室研究支援センター
責任者	学長室部長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
研 一 B	①研究力を活かした産官学連携の推進による共同研究の促進	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

令和21年度に本学があるべき姿＝ビジョンを実現するため、研究力を活かした産官学連携の推進による共同研究を促進する。

【学習院大学ソーシャル・イノベーション・エコシステム推進事業】

本事業では、本学の優れた研究力を基に、学内外の様々なステークホルダーと連携することで生み出された革新的な手法により社会課題を解決する仕組みを構築し、社会全体の利益と発展に貢献することを目指す。そのために産官学連携を含む研究活動を推進し、研究成果を積極的に発信することで産業界との連携体制を構築する。これらの活動により産官学連携及び知的財産の積極的な活用・保護を推進する。(エコシステムとは、複数の企業が商品開発や事業活動などでパートナーシップを組み、互いの技術や資本を生かしながら、消費者や社会などをも巻き込み、業界の枠や国境を超えて広く共存共栄していく仕組みである。本事業におけるエコシステムとは、以下に記載する各プログラムが相互に関連することにより産官学連携及び知財活用を推進する仕組みを指す。)

具体的には以下の事業を実施する。

①研究環境整備プログラム

- 産官学連携に繋がる研究活動を生み出すための「科研費研究成果展開事業」推進
- 研究成果を広く発信するための「研究成果広報(プレスリリース)」展開
- 産官学連携推進のための大学間連携「筑波大学産学連携プラットフォーム」締結

②産官学連携加速化プログラム【中期予算】

- 企業等に本学の多様な研究者や研究活動を紹介するための「研究シーズ集」作成
- 企業との共同研究に発展させるための「産官学連携ダイレクトマーケティング」推進
- 産官学連携による共同研究実施ための「産学マッチングイベント出展」
- 産官学連携推進のための「TLO(Technology Licensing Organization:技術移転機関)」活用

③知財活用推進プログラム

- 大学組織としての強みの技術を特定するための「国際特許分類に基づく論文解析」
- 論文解析結果に基づく、特許申請支援のための「知財デザイナー整備」

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

本事業の到達目標は、以下の通りである。

①令和5年度までにエコシステムを構築する。(定性目標)

②令和6年度以降は、令和5年度までの事業を自己点検し、数値目標を設定する予定である。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	→	→	→	→			
	エコシステムを構築する。				→	→	→
					令和5年度までの事業を自己点検し、数値目標を設定する。		

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	若手研究者に対する知財分析件数	知財分析を行った件数					
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標					2	2	2
実績					2		

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	以下の事業を実施しエコシステムを構築する。 ①研究環境整備プログラム(間接経費) 「科研費研究成果展開事業」、「研究成果広報(プレスリリース)」、「筑波大学産学連携プラットフォーム」 ②産官学連携加速化プログラム【中長期予算】 「研究シーズ集」、「産官学連携ダイレクトマーケティング」、「産学マッチングイベント出展」、「TLO活用」 ③知財活用推進プログラム(間接経費) 「論文解析」、「知財デザイナー整備」	以下の事業を実施しエコシステムを構築する。 ①研究環境整備プログラム(間接経費) ②産官学連携加速化プログラム【中長期予算】 ③知財活用推進プログラム(間接経費) 以上について適宜実施中である。 今後の課題は年度末に総括予定。 ★進捗段階:「実施展開」
令和5年度 (2023年度)	以下の事業を実施しエコシステムを推進する。 ①研究環境整備プログラム(間接経費) 「科研費研究成果展開事業」、「研究成果広報(プレスリリース)」 ②産官学連携加速化プログラム【中長期予算】 「研究シーズ集」、「産官学連携ダイレクトマーケティング」、「産学マッチングイベント出展」、「TLO活用」 ③知財活用推進プログラム(間接経費) 「論文解析」、「知財デザイナー整備」	以下の事業を実施しエコシステムを構築し産学連携活動を推進した。 ①研究環境整備プログラム(間接経費) ②産官学連携加速化プログラム【中長期予算】 ③知財活用推進プログラム(間接経費) 以上について実施した。 ★進捗段階:「実施展開」
令和6年度 (2024年度)	令和5年度同様に実施する。	以下の事業を実施しエコシステムを構築し産学連携活動を推進した。 ①研究環境整備プログラム(間接経費) ②産官学連携加速化プログラム【中長期予算】 ③知財活用推進プログラム【中長期予算】間接経費から変更 以上について実施した。 ★進捗段階:「実施展開」
令和7年度 (2025年度)	科研費成果展開事業が令和6年度で終了するため、令和7年度は以下の事業に取り組む。 ・産官学連携ダイレクトマーケティング ・産学マッチングイベント出展 ・知財分析用オンラインデータベース利用 ・若手研究者に対する知財分析	各事業について以下の通り具体的に取り組んだ。 ・産官学連携ダイレクトマーケティング →TLOによるライセンス使用料の獲得 ・産学マッチングイベント出展 →大学見本市への出展 ・知財分析用オンラインデータベース利用 →本学研究者への知財分析に活用 ・若手研究者に対する知財分析 →2名に対する分析を実施予定 ★進捗段階:「展開完了」 TLOとの連携による成果が着実に出ているため実施展開から変更する。
令和8年度 (2026年度)	令和7年度同様に以下の事業に取り組む。 ・産官学連携ダイレクトマーケティング ・産学マッチングイベント出展 ・知財分析用オンラインデータベース利用 ・若手研究者に対する知財分析	